広報りしり

大火特集号

発行
第1号
昭和39年12月1日
発行者　利尻町役場
印刷者　利礼資材㈱印刷部

町の人口
―10月―
人口　9,069人
男　4,582人
女　4,487人
世帯　1,654
出生　6人　死亡5人

町の復興は精神の作興から

利尻町長　小田桐清実

五月十五日、この日は我が利尻町にとって永遠に忘れることの出来ない日である。

沓形市街の中央部から出火した劫火は一瞬にして二三六戸を焼失し、約八億円にのぼる損害を受けその惨状は言語に絶するものがあつた。

悪夢に憑かれているような毎日をひたすら復興に専念して来た町民挙げての復興意慾によつて十月十五日までに家屋三三棟、店舗五二棟、官公衙・銀行四棟、倉庫一〇棟、バネール四八戸をふくめて計一四七戸が完成し、目下建築中のもの計四七戸で冬空をひかえて住宅の心配がないまでに復興したことは御同慶に堪えないところである。

あれから六ヶ月、目ざましい復興の早さには世人も驚いている。

罹災者のみなさんにはこの間、ひるまず、たゆまず異常な意慾を燃やして敢闘を続けられ、焼け跡から颯爽として起ち上つたその不退転の意気に対し、深く敬意を表するものである。

また、最も難事中の難事とされた都市計画に際し、一身の利害得失を顧みず、欣然として町百年の大計に御協力せられた町民のみなさんに対し、ここに感謝を申し上げる。

おかげ様で、近代的な都市美をそなえ面目を一新した立派な市街地が出来、町発展のため誠に喜ばしい次第である。

町としての復旧事業には、病院・冷蔵庫・役場・職員住宅・漁民研修所・隔離病舎・有線放送・給水施設など沢山あるが、赤十字再建団体である町の財政では動きがとれず、これ等に要する事業費の総額は実に二億一千六百八十一万円の巨額に達し、その内起債（金を借りること）に求めなければならない金額は一億二千五十万円、国や道の支出金四千七百五十二万円、特定財源二千二百三十五万円で一般財源として町の持出し分は二千六百四十四万円である。

起債についてはなるべく、長期で、低利の金を借りることに努力したが、国でも道でも出来るだけ災害復旧（原形に復させること）程度に止めるべきであると主張し、病院・冷蔵庫の如きは当初計画した事業費よりも千五百万円から二千万円も低く査定して容易にゆすらなかつたため　数回に亘り上京或いは出札して資金の獲得に努め、むずかしい事務的な作業をおし進めながらも二転三転してようやく十月に入り、当町の予定どおりの資金を確保することが出来たのである。

こうした陳情運動に親身になつて応援して頂いた松浦周太郎先生ならびに町村知事さんの御配慮に対しこの機会に深く感謝を申し上げる。私はここで町民のみなさんに特に申し上げておきたいことは、このような多額の金を借りて復興事業を行つても決して増税を考えたり、必要以上に仕事をするというのではない。またこのたびは国や道の特別な配慮によつて町の財政を圧迫するような無理はしていないことをおことわりしておく。

このほか、町の本年度の一般事業として、利尻高校・新湊小学校の増築、小中学校の改修、教員住宅、船巻場、沿岸漁業振興事業などの文教・産業施設などの事業費四千四百五十六万円を見込んでおり、それぞれ工事に着手して一部完成を見ている。

私はこの度の大きな災害の中にあつて町民の協力と鞭韃に支えられながら私心を去り、公事に専念して、町政を動揺させることなく一歩ずつ前進させる努力を続け町民の信頼にこたえたい。

災害は復興し、形は整つても我が利尻町はまだまだ苦難の道を歩まねばならないと思う。

島の基幹産業である漁業の振興と、これに関連する加工業をどのように発展させて行くかは町の大きな課題である。

斜陽化しつつある沿岸漁業から沖合漁業えの転換、近代資金の導入による漁業経営の合理化など、経済団体である漁組や商工会との緊密な連携が必要であり、このことによつて住民の生活を豊かにしなければならない。

この課題はひとり理事者や一部の人だけでなく町民あげて一致協力の体制を取らねばならない。即ち「融和」が必要である。協力一致のないところに「よりよき町づくり」もなければ「よい人づくり」も出来ないと思う。

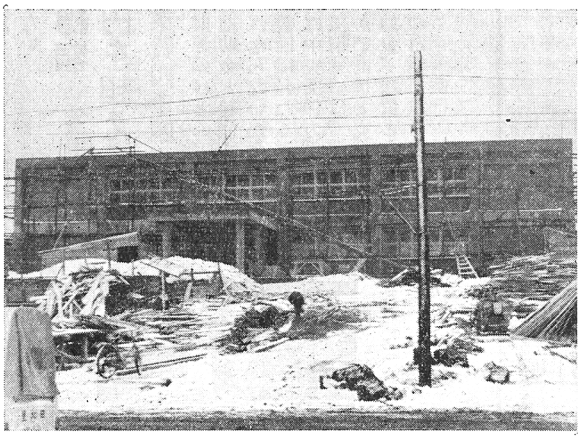
禍を転じて福となすためには町民の「和」を大きな柱とした上向き、前向きの姿勢がなければならないと信じている。

もう一つ大切なことは心を豊かにすることである。

どんなに苦しいことがあつても、辛いことがあつても心から貧乏になつてはならない。

已れの心の持ち方によつて楽しくもなれば悲しくもなるからである。

私は特に強調したい。それはいうまでもなく町の復興と発展は進取の気象、即ち古い言葉でいえば精神の作興である。



工事中の役場庁舎

おわりに、このたびの災害にあたり全国民から数多くの救援物資と、心からなる見舞金を沢山頂き、筆舌に尽くせない感激をもつて感謝の意を表し、これに報いるため、住みよい郷土の再建を誓つてやまないものである。

沓形大火とその復興のあゆみ

▼焦土は語らず▲

秀峰利尻岳のふもと沓形に、さわやかな初夏を迎えようとする五月十五日午後六時五十分頃、折から異常乾燥注意報発令中の沓形市街の一角に業火の焔があがつた。温度一四度、湿度四三%、二メートルの東風が吹く快晴の日であつた。しかし、火災発生とともに火は風を呼び、風は火をあおつて奔放に火線を拡げ、利尻町消防力の全勢力を挙げての消火活動と、隣接東利尻町、礼文町の応援消火も空しく、消防水利の乏しさも加わつて、延焼実に六時間余、役場、病院、郵便局等の公共施設の大部分と漁民生活に直結する漁協事務所、冷凍工場等々をなめつくし、市街の中心、中小企業を包擁する二百三十六戸（住家百六十三戸、非住家七十三戸）は、一夜にして灰燼に帰し、損害額実に八億三千万円におよぶ家屋と財産を失うという未曽有の大火に遭遇した。

世間の言葉に「災害は忘れたころにやつてくる」というのがある。もちろん、災害を喜んで迎える人もいないし、希望してもいない。そのほとんどが天災、不可抗力に基くものだからである。

私たちは、沓形市街の大半を一夜にして、烏有に帰せしめた火災の恐しさを身にしみて痛感し、二度とこの様な悲惨事をひき起さないことを誓う意味からも、このたびの大火の足跡をふり返つて見ることにした。

▼大火の足跡▲

○出火日時
昭和三十九年五月十五日
午後六時五十分頃

○出火場所
利尻町沓形字本町五十三番地、倉庫

○出火原因
不明

○気象状況
(1)火災発生時
温度一三、八度　湿度四三%　南々東一、八メートル　快晴
(2)出火後の風向風力
午後八時まで南々東、
午後九時～十六日午前二時まで南、風力五～七メートル
異常乾燥注意報発令中

○延焼経過
（初期）
通報と同時に消防本部は、利尻町消防団員全員の出動を指令、ポンプ車一台、小型動力ポンプ一五台、団員二八五名の全戦力を投入して消火にあたつたが、異常乾燥トのため、火のまわりが早く、水利の乏しいことも加わつて初期制圧に至らず、大火の様相を呈してきた。

（中期）
町は役場内に災害対策本部を設置し、町内に有線放送を通じて飛び火警戒を指令する一方、東利尻町、礼文町に消防団の応援出動を要請、東利尻町消防ポンプ車三台、小型動力ポンプ一三台、団員二二〇名、礼文町小型動力ポンプ六台、団員一二〇名をさらに投入、必死の防火態勢を敷いたが火点が移動するに従つて火線が分岐して四方にひろがり、そのうえ風も強まつてきて、消防陣を包むように拡大してきた。このため消防ポンプは孤立の状態に陥いり、ホースは分断し、集中的な防火活動ができなくなり、連絡も半身不随に近く、組織的な消火活動はほとんど不可能になつた。

また、水利もそのほとんどが海水を利用したので、火点が延長していくにつれてホースは限度に達して水圧は低下し、火点は風に向うまでになつた。

（後期）
火勢に直面した災害対策本部は、国保病院入院患者の沓形小学校えとの移送と役場ならびに教育委員会に重要書類の搬出を指示するとともに、本部も沓形中学校え移つた。

また、婦人会に焚き出しを要請、背水の陣を敷いてブルトーザーによる破壊消防を行うなど、あらゆる手段方法を用いて延焼拡大の防止に努めたが遂に二三六戸全焼という悲惨な結果をもつて火線は停止した。

○火勢制圧
五月十六日午前零時三十分

○鎮火時刻
五月十六日午前一時三十分

○消防勢力
利尻町
ポンプ車　一台
小型動力ポンプ一五台
団　員　二八五名

○応援勢力
東利尻町
ポンプ車　三台
小型動力ポンプ一三台
団　員　二二〇名
礼文町
小型動力ポンプ　六台
団　員　一二〇名

○使用水利
打込式消火栓三ヵ所、ほか全部海水

○被害地域
九万一千八百四十平方米
（利尻町沓形字本町、富士見町、緑町、日出町一円）

○被災（全焼）
戸数　二三六戸（内非住家七三戸）
世帯数　二〇三世帯

○業種別被災世帯数
水産業五〇（漁業四七、水産加工三）
商工業五四（製造業七、小売業三六、大工七、運搬業四）
サービス業二五
（劇場一、浴場一、指圧師一、料理業四、飲食業八、クリーニング二、理容業三、旅館業三、医師二）
従業員　二六
公務員　三三
その他　一五（日雇八、無職五、その他二）

○被災者数　八九八人

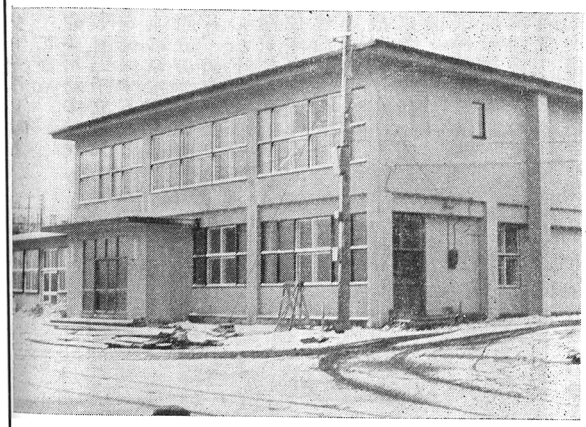
○死傷者　二名（死者一名重傷者一名医大病院において死亡）

○被害総額
八億二千九百七十九万五千円

○被災主要官公衙金融機関等
町役場、教育委員会、国保病院、電気企業庁、沓形郵便局、稚内警察署沓形警部補派出所、沓形水産物検査員駐在所、沓形漁業協同組合、同冷凍工場、沓形駅、道銀利尻支店、稚内信用金庫沓形支店

▼災害対策▲

今次火災の諸般の復旧対策、とくに応急対策の円滑な進捗は、自衛隊をはじめ稚内海上保安部、稚内開発建設部、稚内土木現業所、稚内営林署、稚内警察署、稚内保健所、稚内市役所、稚内利礼運輸株式会社、日本通運、北海道電力株式会社、北海商船株式会社など各方面の援助と協力の賜物



完成した漁協事務所

にほかならない。

また、佐藤宗谷支庁長、二社谷地方部長をはじめ、宗谷支庁関係部課の真剣且つ熱意あふれる指導によつて各種復旧対策が立案実行されたといつても過言ではない。

それは、ありきたりの指導とか援助とかというものでなく「子を思う親の愛情」という言葉以外に表現することができない。

このことは、町理事者、町議会はもちろん町民の皆さんも是非肝に銘じていただきたいと思う。

この日、五月十五日午後十時四十五分、四十世帯以上の被災を確認した宗谷支庁長は、機を失せず災害救助法の発動と利尻町火災宗谷支庁対策本部の設置を完了するとともに、余炽いまだ消えやらぬ十六日午前五時、自衛隊機によつて現地沓形に到着、災害状況視察、続いて午前六時、堤道社会課長補佐などが災害対策本部に到着し諸般の対策がたてられた。

1 **応急対策**

(1)災害救助法発動

五月十五日午後十時四十五分

(2)町災害対策本部設置

十六日早朝沓形中学校に設置、支庁長の指揮下に入る

(3)避難所の開設

罹災者収容のため沓形小学校ほか四カ所に開設

(4)自衛隊等の派遣要請

(イ)自衛隊

宗谷支庁長より自衛隊の出動を要請

○移動無線機輸送のための航空機の派遣

○現地救援のため第二師団第三普通科連隊より隊員有名派遣

(ロ)海上保安部

○通信連絡及び物資輸送のため巡視船「いしかり」「そらち」「れぶん」出動

(5)移動無線局の開設

沓形郵便局の焼失によつて通信が杜絶したので、十六日午前六時自衛隊機により無線機を輸送、直ちに開局

(6)救援物資の輸送

日本赤十字社、自衛隊、宗谷支庁よりの救援物資（毛布、日用品、米、電気機械）などが十六日午前中に到着

(7)衛生対策

(イ)防疫対策

道保健予防課及び稚内保健所において実施

(ロ)医療班の派遣

日赤救護班（五名）到着

(ハ)その他

救援物資の運賃免除

復旧資材の運賃減額

2 **復旧対策**

(1)住宅対策

(イ)応急仮設住宅の建設

組立式住宅四八戸を富士見町、日出町、種富町の三団地に建設

(ロ)災害公営住宅等の建設

道低家賃住宅八戸、災害公営住宅二〇戸を十一月下旬までに建設

(ハ)建築用材の確保

製材三千立方米を確保するとともに原木三千四百立方米を国有林、道有林よりの払下げを申請

(ニ)融資住宅の建設

住宅金融公庫の建設資金借入業務開始

(2)医療対策

(イ)応急診療所の建設

(ロ)国民健康保険病院の再建要請

(3)漁業関係施設の復旧対策

(イ)漁業協同組合冷凍工場の復旧

(ロ)漁業協同組合事務所および漁民研修所の建設

(4)中小企業金融対策

道商政課岩谷課長補佐等による各種公庫の設備資金及び運転資金融資斡旋

各種更正資金の斡旋

世帯更正資金等各種更正資金の貸付申請

(5)町財政対策

(イ)普通交付税の繰上交付

(ロ)財政調整交付金の交付

(ハ)災害つなぎ資金の融資

(ニ)国保病院、役場庁舎、職員住宅の災害復旧起債要請

とくに、国保病院、消防施設、都市計画による区画整理事業等の補助金の要請

復興した本町附近

全国各地から寄せられた暖かい社会愛に感謝を！

義援金総額二千百八十万円に及ぶ

此の度の火災にあたり全国各地から寄せられた義援金の額は二千百八十三万四千八百二十一円に達し、救援物資は六千二百個（十一月十五日現在）に及び、このほかに数々の激励や慰めの手紙が続々と送られた。義援金の中には、がんぜない幼稚園の子供や、小中学生のお小使いを倹約して送られたもの、街頭で募金したものもあり、又激励の手紙のなかには八十才を過ぎた老人が手のふるいを克服して書いたと思われるたどたどしいものなど読む人の涙をそそるようなものもあつた。又この義援金や救援物資を送られた人々のなかには細々とその日をくらしている生活困窮者のあることを思えば胸の底がジーンと詰まるものを感じる。

私たちはこの全国からの暖い救援に感謝し、この恩義にむくゆるためより立派な町をつくることを誓つてやまない。

町村知事が災害現地を視察

復興に心血を注ぐ罹災者を激励

あれから約六カ月の歳月が夢のように流れた。累々として焼けただれた溶岩を深更まで打ち砕くドリルの騒音が消えて、復旧の槌音高らかに鳴り響き、そして今、漁協、冷凍工場、病院、役場、職員住宅などの公共建築物をはじめ、公営住宅、一般住宅などが建築を急いでいる。

また、住民の期待を担つて、都市計画による町道新設工事が進められている。

思えば、大火の日からちようど一カ月目の六月十四日、欧米からの旅装をほどく暇もなく急拠飛来した町村知事が、現地視察の後、陳情の場所、沓形中学校音楽室において挨拶し「私は欧米旅行の途中において、当町の大火を聞き胸をいためていた。本日こちらに参り現地を見、またお話を聞いて、当町における区画整理事業が、災害後、僅か一カ月も経たない今日、何のトラブルも起ることなく円満に話し合がついて進められているということを聞いてまことに喜ばしい。他に例を見ることのできないことであり、関係者ならびに住民の皆さんに敬意を表する」と述べられたが、復興への第一歩において、極めて円滑なすべりだしをしたことは、その後における種々の災害復旧を行う上において非常に大きな推進力となつた。

これは「禍を転じて福となす」住民皆さんの異常な

復興意慾が、従来のゆきがかりを捨てゝ積極的に町に協力したたまものにほかならない。

火災復旧事業費総額 二億一千万円を超える

ほかに普通建築事業費四千四百万円

灰燼の中からあらゆるものが復興をめざして胎動をはじめ、バラックの家と急造の商店も随所にその数をふやしてきた五月二十七日、町長は議長、副議長とともに火災復興に関する陳情書を携行して札幌、東京方面に出発した。

それは、財政再建団体である当町としては、その復旧財源のほとんどを国、道の補助金と起債に求めなければならないからである。

数回にわたる道庁、さらには中央関係方面への切実な陳情要望は、関係当局の温かい同情と支援を得て、補助金、起債ともにほゞ当町の希望どおり承認せられた。

利尻町火災復旧事業一覧表

（単位千円）

事業名	事業費	財源内訳 国道支出金	地方債	特定財源	一般財源	事業内容
役場庁舎復旧	25.355		13.000	3.800	8.555	鉄筋コンクリート2階建 218坪　木モ亜平20 00
職員住宅 〃	14.790		10.000	2.730	2.060	木モ亜　2戸 木亜平　10戸
消防施設 〃	5.698	820	4.000		878	タンク車1台小型動力3台 ホース70本
災害公営住宅	14.603	7.312	3.600		3.691	簡易耐火第2種 20戸
都市計画事業	14.935	9.645	5.200		90	火災復興土地区画整理事業
国保病院復旧	79.395	9.141	55.000	10.358	4.896	45条578.375病院462 875 看宿47 5　医住68.00
有線放送 〃	1.142		1.000	142		羅災戸数200戸 内外線新設　6.100m
災害仮設住宅	2.940	2.016			924	パネール　48戸
製氷冷凍施設	38.640	15.820	18.000	3.400	1.420	沓形漁協冷蔵庫鉄筋196坪
漁民研修施設	13.250		9.400		3.850	沓形漁協事務所
隔離病舎復旧	6 062	2.766	1 300	1.920	76	ブロック造60坪 木造4坪　浄化槽1基
計	216.810	47.520	120.500	22.350	26.440	

昭和39年度普通建設事業一覧表

（単位千円）

事業名	事業費	財源内訳 国道支出金	地方債	特定財源	一般財源	事業内容
利尻高等学校新築	13.044	1.433	1.000	100	10.511	鉄筋117坪 木造64坪 火災報知機
教員住宅新築	4.024	1.224	1.800		1.000	木造平家建5戸 69坪
新湊小学校改築	5.712	1 342	3.400		970	鉄筋44坪　木造34坪
特別低家賃住宅	795				794	第2種8戸整地給排水物置その他
沿岸漁業構造改善	3.091	2.753			338	あわび移殖岩礁爆破 コンクリートブロック
船巻場施設	2.490	1 743		647	100	仙法志漁協上架軌条 50m　巻揚機 3屯
船揚場新築	3.750	545	2.546		659	栄浜、神居、船揚場
観光事業	200				200	観光事業
失業対策事業	4.694	2.490		75	2.129	吸収人員　6 072人
造林事業	385	88			297	町有林新植1.5町歩 崩防止林手入
飲用水供給施設	4.600		4 500		100	ボーリング　15カ所
沓形中学校外改修	1.000				1.000	教室内部4教室外
街路灯設置	150				150	街路灯設置
消防施設	632				632	ホース30本　その他
計	44.567	11.618	13.246	822	18.881	

昭和三十九年度普通事業についても、国や道の特別の配慮によって、火災復旧とは切り離して利尻高校の新築外十三件の事業執行が認められ、そのほとんどは既に完成している。